様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月　９ 日現在

機関番号：１４２０１
研究種目：基盤研究(A)（一般）
研究期間：2016～2020
課題番号：１６Ｈ０１９４４

研究課題名（和文）「菅浦文書」の総合調査及び村落の持続と変容の通時代的研究

研究課題名（英文）Overall investigation of "Sugaura Documents" and study of persistence and transformation of village from the medieval to early modern period in Japan

研究代表者
青柳　周一（AOYAGI, SHUICHI）

滋賀大学・経済学部・教授

研究者番号：４０３３５１６２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　27,600,000円

研究成果の概要（和文）：滋賀大学経済学部附属史料館に寄託されている国宝「菅浦文書」の再調査を行い、合計680点の史料を点検した。滋賀県長浜市西浅井町菅浦で現地調査を実施し、現地に残る史料をデジタル撮影した。2018年には史料館で「菅浦文書」と関連史料を用いた企画展を開催し、講演会を実施した。同年には公益財団法人史学会でのシンポジウムの開催にも協力した。当研究期間中に論文20件などを公表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
国宝「菅浦文書」は日本中世惣村研究史上で代表的な史料群であるが、現時点で唯一の史料集である『菅浦文書』には要修正箇所が数多く含まれており、研究の発展を妨げる要因となっている。本研究では、関連史料群を含めた新たな史料集の編纂・刊行を目標に、共同研究会形式で菅浦文書の再調査と『菅浦文書』の校訂を進捗させた。さらに菅浦現地に残る史料を調査・撮影し、学界で未紹介の中世・近世史料の存在も確認した。研究成果は論文や展示・講演会等を通じて積極的に公表した。

研究成果の概要（英文）：We reinvestigated "Sugaura Documents", a national treasure held in the archival museum, faculty of economics Shiga University and analyzed the total of 680 documents. Besides, we conducted field survey in Sugaura, Nishiazai-cho, Nagahama-shi, Shiga and took pictures of the historical records digitally. In 2018, we held an exhibition of "Sugaura document" at the archival museum, hosting a lecture. In the same year,we cooperate with a symposium held by SHIGAKUKAI(The Historical Society of Japan).In result, we published the 20 articles during the project.

研究分野：日本近世史

キーワード：菅浦文書　中世史料　惣村

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

(1)滋賀大学経済学部附属史料館（以下、「附属史料館」と略す）に寄託されている「菅浦文書」（2,158 点、うち中世分 1,261 点は本研究を開始した 2016 年当時は国の重要文化財であったが、2018 年に国宝指定を受けた）は、日本中世惣村研究史上で最も代表的な史料群であり、1950 年代以降に膨大な数の研究成果が生み出された。こうした成果を基盤として、近年は中世村落史研究が隆盛に至りつつあるが、その一方で菅浦文書自体の新たな研究はむしろ減少している。

(2)これは、菅浦文書史料集としては唯一の滋賀大学日本経済文化研究所史料館編纂『菅浦文書』（以下、『菅浦文書』と略）に、文字の解読や人物・花押の比定の誤り、また修正が必要な史料名等が数多く見られ、菅浦に関する実証的研究を進める上での大きな障害となってしまっていることが関係する。そこで研究代表者及び分担者は、平成 24～27 年度の科学研究費助成事業「中・近世「菅浦文書」の総合的調査・公開と共同研究－中・近世村落像の再検討」（基盤研究（Ｂ）、24320127。以下、「第１次科研」と略）において菅浦文書の再調査を実施し、『菅浦文書』の内容の点検と修正を進捗させた。

(3)本研究は上述の第１次科研での成果に基づきながら、菅浦文書の再調査と『菅浦文書』の点検・修正を完了させ、関連史料群を含めた新たな『菅浦文書集成（仮）』の編纂・刊行に向けた作業をさらに推進するために計画したものである。

(4)また、第１次科研においては、附属史料館や菅浦現地で保管されている近世・近代の関連史料群の調査や撮影を行った。本研究でもこうした調査・撮影を継続することとする。さらに、中世から近世、さらに近現代に及ぶ史料群を用いて、菅浦をフィールドにしながら、長期間に及ぶ村落の持続と変容の過程について、実証的かつ総体的に解明するための共同研究を実施する。

２．研究の目的

(1)本研究の目的は、①菅浦文書の再調査と『菅浦文書』の点検・修正の完了、②中・近世史研究者による菅浦文書及び関連史料群を用いた共同研究の実施、③関連史料群の調査・撮影・公開と附属史料館内における菅浦文書研究の総合的センター機能の確立という、３つの課題を達成することである。

(2)①については、第１次科研の成果を踏まえて、『菅浦文書』での翻刻内容と、菅浦文書のデジタル画像（必要な場合は原本）を厳密に照合しながら再調査を進め、『菅浦文書』の点検・修正を完了させることを目指す。この作業では、第１次科研で構築した菅浦文書研究文献データベースを活用する。『菅浦文書』の点検・修正には、②の共同研究の成果や、③の史料調査による知見も積極的に反映させる。菅浦文書全点にわたって現在の研究水準に合致した高精度な翻刻内容の修正を実現し、その達成を受けて新たな『菅浦文書集成（仮）』の編纂・刊行に向けた作業を推進する。

(3)②については、この共同研究では、菅浦文書及びその関連史料群に基づいて、村落の社会構造・環境・景観・産業・流通・宗教・文化といった諸要素に注目しながら、中世から近世、さらに近現代にかけての村落の持続と変容の過程を実証的かつ総体的に解明することを目指す。共同研究の成果は、論文・研究報告・講演・展示等を通じて公表し、広く学界及び社会に発信する。

（4）③については、菅浦現地で保管されている近世・近代史料の調査・撮影を完了する。また、東京大学史料編纂所等他の研究機関・歴史資料保存機関が所蔵する菅浦文書関連史料の調査・撮影を行ない、①の『菅浦文書集成（仮）』の編纂・刊行計画や、②の共同研究にも活用する。現在附属史料館で収蔵する関連史料についても、その公開方法を検討する。

３．研究の方法

(1)研究代表者・分担者による共同研究会の形式で、菅浦文書全点の再調査を行い、『菅浦文書』の点検・修正を完了させる。その上で、新たな『菅浦文書集成（仮）』を編纂・刊行するための作業を進捗させる。

(2)共同研究会で、菅浦文書及び関連史料群に関する研究を行う。その研究成果は、学会における研究報告・講演や論文執筆、附属史料館における展示への反映等といった方法で公表する。

(3)菅浦現地及び各研究機関・歴史資料保存機関において関連史料を調査し、デジタルカメラによる撮影・複写を行う。撮影・複写した史料は附属史料館に設置し、公開方法について検討する。

(4)研究代表者・分担者の具体的な役割分担は、以下の通りである。

青柳周一　　研究代表者。菅浦文書調査・研究の総括。菅浦文書による宗教史的研究。
宇佐美英機　研究分担者。菅浦文書による商業・経営史的研究。
宇佐見隆之　研究分担者。菅浦文書による荘園史・交通史的研究。
水野章二　　研究分担者（2018 年度を除いて参加）。菅浦文書による村落構造研究。
東幸代　　研究分担者。菅浦文書による漁業史・舟運史的研究。
橋本道範　　研究分担者。菅浦文書による環境史的研究。
井上聡　　研究分担者（2018 年度より参加）。菅浦文書の史料学的研究。
野田浩子　　研究分担者（2018 年度より参加）。菅浦文書の地域社会史的研究。

４．研究成果

(1)菅浦文書の中世史料全点（1,261 点）の再調査と刊本『菅浦文書』の点検・修正のため、研究代表者・分担者・協力者による共同研究会を附属史料館で合計 36 回（45 日）開催した（2016 年度 6 回（6 日）、17 年度 6 回（8 日）、18 年度 6 回（8 日）、19 年度 6 回（10 日）、20 年度 12 回（13 日））。2020 年度にはコロナ禍でも研究会の継続的な開催が可能な方法として、Zoom を活用するオンライン形式を採用した。研究会では刊本『菅浦文書』での翻刻内容を細部にわたって点検し、史料中の人物や年代の比定、史料名等を検討した。本研究期間中に点検・修正した史料は合計 680 点である。2020 年度前半にオンライン形式での研究会を実施する準備が整うまでに時間を要したり、共同研究の進展にともない点検・修正内容が次第に高度化・精緻化したため、第 1 次科研の初期に行った点検・修正内容を再点検する必要が生じたといったこともあり、菅浦文書の中世史料全点の点検・修正には至らなかったが、第 1 次科研と合わせて合計 1,087 点の点検・修正を完了することができた。また、以上の成果を踏まえて、『菅浦文書集成（仮）』の編纂・刊行に向けた具体的な作業を進捗させた。

(2)滋賀県長浜市西浅井町菅浦における現地調査を、本研究期間中に合計 7 回実施した（2016 年度 2 回、17 年度 2 回、18 年度 2 回、19 年度 1 回）。現地では、阿弥陀寺保管の近世・近代文書を中心に撮影・仮目録化を行った。撮影した史料の点数は 2,370 点で、現地で入力した仮目録データを後日修正した点数は 2,490 点である。第 1 次科研での成果と合わせて、菅浦現地における調査を完了した。現地調査の過程では、これまで学界で紹介されていなかった中世・近世史料の存在をも確認することができた（このうち中世史料の一部に関しては、(3) の史学会大会において大河内勇介氏（研究協力者）が研究報告を通じて紹介した）。『菅浦文書集成（仮）』は、こうした史料も含めて刊行する予定である。また 2017 年には、東京大学史料編纂所で所蔵する山科家旧蔵史料及び菅浦文書の影写本を調査した。

(3)本研究による成果公表のため、附属史料館において、2018 年度秋季企画展「菅浦文書国宝指定記念　中世菅浦の惣村文書」（会期 10 月 15 日～11 月 16 日、観覧者数 694 人）を開催した。この展示は、附属史料館で収蔵する中世文書（菅浦文書、今堀日吉神社文書、大嶋神社・奥津嶋神社文書、伊藤晋家文書）を一堂に公開する機会となった。展示のコンセプトや展示史料選定に関する議論を共同研究会で行い、研究代表者・分担者・協力者が展示解説文や図録を分担執筆すること等を通じて、本研究において蓄積した知見を展示に反映させた。あわせて、企画展の関連講演会（11 月 4 日、滋賀大学彦根キャンパス、参加者 116 人）を実施した。本研究からは代表者及び分担者 1 名が登壇し、中世・近世・近代史料に関する共同研究の成果を公表することができた。講師と講演タイトルは、下記の通りである。

太田浩司（長浜市市民協働部学芸専門監・当時）「菅浦と大浦の堺争論～中世村落社会の実像～」
宇佐見隆之「近江商人の源流としての今堀」
青柳周一「近世の菅浦村と古文書について」

また 2018 年には公益財団法人史学会大会での中世史部会シンポジウム「中世村落研究と菅浦文書」の開催に協力し、本研究の研究分担者・協力者が報告者等として登壇した（11 月 25 日、東京大学本郷キャンパス。7 月 31 日に附属史料館で準備報告会を実施）。当日のプログラムは下記の通りである。

趣旨説明・司会　　宇佐見隆之・髙橋典幸
報告１　大河内勇介「戦国期菅浦の真宗門徒と「自検断」―新出史料をもとに―」
　　２　村上絢一「中世菅浦の土地利用と山林資源」
　　３　橋本道範「消費論から見た中世菅浦」
コメント　井上聡・似鳥雄一

(4)上記（3)の企画展関連講演会のうち、太田・青柳講演について、附属史料館『研究紀要』52号（2019年3月刊行）に講演録を掲載した。同50号（2017年3月刊行）には、本研究と関連する史料群の目録（伊藤晋家文書目録）を掲載し、附属史料館で収蔵する中世史料の公開を促進した。伊藤晋家文書については、(3)の企画展でも一般に公開した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計21件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　5件）

１．著者名 橋本道範	４．巻 129-6
２．論文標題 消費論からみた中世菅浦	５．発行年 2020年
３．雑誌名 史学雑誌	６．最初と最後の頁 986-1002
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 橋本道範	４．巻 129-6
２．論文標題 消費論からみた中世菅浦	５．発行年 2020年
３．雑誌名 史学雑誌	６．最初と最後の頁 986～1002
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 井上聡	４．巻 831
２．論文標題 研究資源の生成・活用をめぐって	５．発行年 2019年
３．雑誌名 歴史評論	６．最初と最後の頁 16-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 村上絢一	４．巻 102(4)
２．論文標題 中世後期における近江国葛川の領有体系	５．発行年 2019年
３．雑誌名 史林	６．最初と最後の頁 629-650
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14989/shirin_102_629	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 村上絢一	4．巻 17
2．論文標題 山城国久多郷（京都市左京区久多）の中世地名と名・垣内・屋敷	5．発行年 2019年
3．雑誌名 歴史文化社会論講座紀要	6．最初と最後の頁 49-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 東幸代	4．巻 47
2．論文標題 明治時代の伊庭一二景ー東近江市伊庭町の近代の風景ー	5．発行年 2019年
3．雑誌名 人間文化	6．最初と最後の頁 74-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 東幸代	4．巻 4
2．論文標題 彦根藩「御鷹場」と近江国の鳥猟	5．発行年 2020年
3．雑誌名 鷹・鷹場・環境研究	6．最初と最後の頁 83-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 青柳周一	4．巻 52
2．論文標題 近世の菅浦村と古文書について	5．発行年 2019年
3．雑誌名 滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要	6．最初と最後の頁 19-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 橋本道範	４．巻 127-5
２．論文標題 南北朝期・室町期　社会・経済	５．発行年 2018年
３．雑誌名 史学雑誌	６．最初と最後の頁 86-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 井上聡・谷昭佳・高山さやか	４．巻 45
２．論文標題 東京大学史料編纂所における史料デジタル撮影のあらましについて	５．発行年 2019年
３．雑誌名 埼玉県地域史料保存活用連絡協議会会報	６．最初と最後の頁 10-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 鬼塚 洋輔 ・大山 航・山田 太造・井上 聡・内田 誠一	４．巻 -
２．論文標題 花押類似検索のための畳み込みオートエンコーダによる画像特徴抽出	５．発行年 2018年
３．雑誌名 じんもんこん2018論文集	６．最初と最後の頁 252－262
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 東幸代	４．巻 9
２．論文標題 幕末～明治前期における琵琶湖葭問屋の葭地	５．発行年 2017年
３．雑誌名 淡海文化財論叢	６．最初と最後の頁 253-257
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 東幸代	4．巻 813
2．論文標題 生産者の暮らし方	5．発行年 2018年
3．雑誌名 歴史評論	6．最初と最後の頁 37-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 宇佐見隆之	4．巻 10
2．論文標題 問丸の発展と港町	5．発行年 2018年
3．雑誌名 生活と文化の歴史学　旅と移動―人流と物流の諸相	6．最初と最後の頁 151-170
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 井上聡	4．巻 150
2．論文標題 『吾妻鏡』の成立とその構成および伝来をめぐって	5．発行年 2017年
3．雑誌名 悠久	6．最初と最後の頁 32-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 井上聡	4．巻 -
2．論文標題 『吾妻鏡』諸本異同表（稿）	5．発行年 2017年
3．雑誌名 東京大学史料編纂所研究成果報告書2017-1『島津本吾妻鏡の基礎的研究』	6．最初と最後の頁 83-102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 水野章二	4．巻 8
2．論文標題 中世の環境と地域社会	5．発行年 2016年
3．雑誌名 神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター年報LINK【地域・大学・文化】	6．最初と最後の頁 6-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 橋本道範	4．巻 649
2．論文標題 地域環境史の課題	5．発行年 2016年
3．雑誌名 日本史研究	6．最初と最後の頁 40-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 橋本道範	4．巻 8
2．論文標題 「湖辺」のムラの確立と創造―「非力の村」論からみる―	5．発行年 2016年
3．雑誌名 神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター年報LINK【地域・大学・文化】	6．最初と最後の頁 22-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 橋本道範	4．巻 50-1
2．論文標題 わかってきた「ふなずし」の歴史	5．発行年 2016年
3．雑誌名 日本調理科学会誌	6．最初と最後の頁 35-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 橋本道範	４．巻 33
２．論文標題 『近江水産図譜』を読む―琵琶湖漁撈の構図―	５．発行年 2016年
３．雑誌名 歴史と民俗	６．最初と最後の頁 44-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計24件（うち招待講演　6件／うち国際学会　2件）

１．発表者名 宇佐見隆之
２．発表標題 日本中世の惣村と惣村文書の研究から―近江国・菅浦文書を中心にー
３．学会等名 大阪歴史科学協議会【9月例会】中世における村落自治と古文書の存在形態ーフランスと日本の比較中世村落社会史の試みー（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 橋本道範
２．発表標題 琵琶湖産フナ属のコード化をめぐって―地域環境史の自然観論―
３．学会等名 京都大学人文科学研究所研究班「生と創造の探求ー環世界の人文学」研究会
４．発表年 2020年

１．発表者名 橋本道範
２．発表標題 「源五郎鮒」と「紅葉鮒」―地域環境史の自然観論ー
３．学会等名 琵琶湖博物館研究セミナー
４．発表年 2020年

１．発表者名 村上絢一
２．発表標題 『歴史評論』845号（2020年9月）特集「中世村落史研究のフロンティア」を読む
３．学会等名 第82回「ムラの戸籍簿」研究会例会
４．発表年 2020年

１．発表者名 村上絢一
２．発表標題 コメントー土佐国「安芸文書」の事例紹介より
３．学会等名 第7回共同研究フォーラム「中世熊野の海・武士・城館」共同研究（奨励）「熊野水軍小山家文書の総合的研究」成果発表会
４．発表年 2021年

１．発表者名 宇佐見隆之
２．発表標題 日本中世の惣村と惣村文書の研究から―近江国・菅浦文書を素材に―
３．学会等名 大阪歴史科学協議会【9月例会】中世における村落自治と古文書の存在形態 ―フランスと日本の比較中世村落社会史の試み―（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 橋本道範
２．発表標題 琵琶湖産フナ属のコード化をめぐって―地域環境史の自然観論―
３．学会等名 京都大学人文科学研究所研究班「生と創造の探究―環世界の人文学」研究会
４．発表年 2020年

１．発表者名 橋本道範
２．発表標題 「源五郎鮒」と「紅葉鮒」―地域環境史の自然観論―
３．学会等名 琵琶湖博物館研究セミナー
４．発表年 2020年

１．発表者名 村上絢一
２．発表標題 『歴史評論』845号（2020年9月）特集「中世村落史研究のフロンティア」を読む
３．学会等名 第82回「ムラの戸籍簿」研究会例会
４．発表年 2020年

１．発表者名 村上絢一
２．発表標題 コメント―土佐国「安芸文書」の事例紹介より
３．学会等名 第7回共同研究フォーラム「中世熊野の海・武士・城館」 共同研究（奨励）「熊野水軍小山家文書の総合的研究」成果発表会
４．発表年 2021年

１．発表者名 橋本道範
２．発表標題 中世菅浦のビワ―環境史的消費論の構築に向けて―
３．学会等名 琵琶湖博物館研究セミナー
４．発表年 2019年

１．発表者名 橋本道範
２．発表標題 フナズシ研究最前線―環境史的消費論に向けて―
３．学会等名 カントリーサイド生業史研究会第１回フォーラム「水辺と魚の環境史」（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 井上聡
２．発表標題 東京大学史料編纂所における字形データの蓄積経緯と花押データへの展開
３．学会等名 CODHシンポジウム「日本文化とAIシンポジウム2019 AIがくずし字を読む時代がやってきた」（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 井上聡
２．発表標題 所史資料調査の現状と展望　～本所所蔵『往復』を中心に～
３．学会等名 近代修史事業と史料集編纂の150年（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 村上絢一
２．発表標題 菅浦の日指・諸河が「棚田」だった頃
３．学会等名 鎌倉遺文研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 村上絢一
２．発表標題 「饗料・腰差・酒肴」請取状の検討
３．学会等名 日本古文書学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 東幸代
２．発表標題 江戸・明治期における琵琶湖の水辺と水害
３．学会等名 国立環境研究所琵琶湖分室セミナー（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 橋本道範
２．発表標題 消費論からみた中世菅浦
３．学会等名 史学会第116回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 大河内勇介
２．発表標題 戦国期菅浦の真宗門徒と「自検断」―新出史料をもとに―
３．学会等名 史学会第116回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 村上絢一
２．発表標題 中世菅浦の土地利用と山林資源
３．学会等名 史学会第116回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 宇佐見隆之
２．発表標題 近江商人の源流としての今堀
３．学会等名 滋賀大学経済学部附属史料館平成30年度企画展関連講演会
４．発表年 2018年

１．発表者名 青柳周一
２．発表標題 近世の菅浦村と古文書について
３．学会等名 滋賀大学経済学部附属史料館平成30年度企画展関連講演会
４．発表年 2018年

１．発表者名 東幸代
２．発表標題 宮津藩にとって漁業とは？－重要漁村・伊根浦を中心に－
３．学会等名 京都府立丹後郷土資料館文化財講座（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 橋本道範
２．発表標題 地域環境史モデル試論―フナを主体とした物語は描けるか―
３．学会等名 京都大学人文科学研究所共同研究「環世界の人文学」例会
４．発表年 2016年

〔図書〕　計10件

１．著者名 水野　章二	４．発行年 2020年
２．出版社 吉川弘文館	５．総ページ数 240
３．書名 災害と生きる中世	

１．著者名 石井美保、岩城卓二、田中祐理子、藤原辰史、松嶋健、森本淳生、立木康介、篠原雅武、ホルカ・イリナ、大浦康介、山崎明日香、松村圭一郎、能作文徳、岡安裕介、唐澤太輔、田中雅一、橋本道範、武井弘一、井黒忍、池田さなえ、瀬戸口明久、近藤秀樹	４．発行年 2021年
２．出版社 人文書院	５．総ページ数 486
３．書名 環世界の人文学	

１．著者名 元木泰雄・米澤隼人・下石敬太郎・花田卓司・山岡瞳・山田徹・小原嘉記・伊集守道・村上絢一・佐古愛己・辻浩和・佐伯智広・長村祥知・滑川敦子・勅使河原拓也・佐藤稜介・岩田慎平・山本みなみ・坂口太郎・伊藤啓介・窪田頌	４．発行年 2020年
２．出版社 吉川弘文館	５．総ページ数 424
３．書名 日本中世の政治と制度	

1．著者名 吉岡拓・坂田聡・西尾正仁・柳澤誠・谷戸佑紀・岡野友彦・熱田順・西川広平・大貫茂紀・薗部寿樹・村上絢一・前嶋敏　・宮間純一	4．発行年 2020年
2．出版社 高志書院	5．総ページ数 380
3．書名 古文書の伝来と歴史の創造―由緒論から読み解く山国文書の世界	

1．著者名 坂本亮太・佐藤純一・白石博則・北野隆亮・弓倉弘年・呉座勇一・春田直紀・村上絢一・関口博巨	4．発行年 2021年
2．出版社 神奈川大学日本常民文化研究所・神奈川大学　国際常民文化研究機構	5．総ページ数 357
3．書名 熊野水軍小山家文書の総合的研究（神奈川大学日本常民文化研究所調査報告；第29集．国際常民文化研究機構共同研究「奨励」調査報告書）	

1．著者名 水野 章二	4．発行年 2020年
2．出版社 サンライズ出版	5．総ページ数 248
3．書名 よみがえる港・塩津	

1．著者名 野田 浩子	4．発行年 2019年
2．出版社 サンライズ出版	5．総ページ数 174
3．書名 朝鮮通信使と彦根	

1．著者名 総合地球環境学研究所Eco-DRRプロジェクト（吉田丈人・深町加津枝・東幸代　他）	4．発行年 2019年
2．出版社 総合地球環境学研究所	5．総ページ数 73
3．書名 地域の歴史から学ぶ災害対応　比良山麓の伝統知・地域知	

1．著者名 中井均・東幸代・塚本礼仁・八杉淳・辻良樹・石川慎治・伊庭功・中川永	4．発行年 2017年
2．出版社 風媒社	5．総ページ数 163
3．書名 古地図で楽しむ近江	

1．著者名 石毛直道・秋道智彌・日比野光敏・橋本道範・櫻井信也・齊藤慶一・篠原徹・藤岡康弘・久保加織・渡部圭一・堀越昌子・中村大輔	4．発行年 2016年
2．出版社 サンライズ出版	5．総ページ数 333
3．書名 再考ふなずしの歴史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	東　幸代 (AZUMA Sachiyo) (10315921)	滋賀県立大学・人間文化学部・教授 (24201)	
研究分担者	橋本　道範 (HASHIMOTO Michinori) (10344342)	滋賀県立琵琶湖博物館・研究部・専門学芸員 (84202)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	井上　聡 (INOUE Satoshi) (20302656)	東京大学・史料編纂所・准教授 (12601)	
研究分担者	水野　章二 (MIZUNO Syoji) (40190649)	滋賀大学・経済学部・研究員 (14201)	
研究分担者	宇佐見　隆之 (USAMI Takayuki) (40319562)	滋賀大学・教育学部・教授 (14201)	
研究分担者	宇佐美　英機 (USAMI Hideki) (60273398)	滋賀大学・経済学部・名誉教授 (14201)	
研究分担者	野田　浩子 (NODA Hiroko) (90826637)	立命館大学・文学部・授業担当講師 (34315)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	大河内　勇介 (OKOCHI Yusuke)	福井県立歴史博物館・主査	
研究協力者	松井　直人 (MATSUI Naoto)	京都府立京都学・歴彩館・資料課・主事	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	村上　絢一 (MURAKAMI Junichi)	和泉市教育委員会・生涯学習部文化遺産活用課・学芸員	
研究協力者	金澤　木綿 (KANAZAWA Yu)	京都大学・人間・環境学研究科・博士後期課程 (14301)	
研究協力者	殷　捷 (YIN Jie)	京都大学・文学研究科・博士後期課程 (14301)	
研究協力者	岸　妙子 (KISHI Taeko)	滋賀大学・経済学部・非常勤職員 (14201)	
研究協力者	南田　孝子 (MINAMIDA Takako)	滋賀大学・経済学部・助手 (14201)	
研究協力者	吉岡　恵 (YOSHIOKA Megumi)	滋賀大学・経済学部・教務職員 (14201)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関